

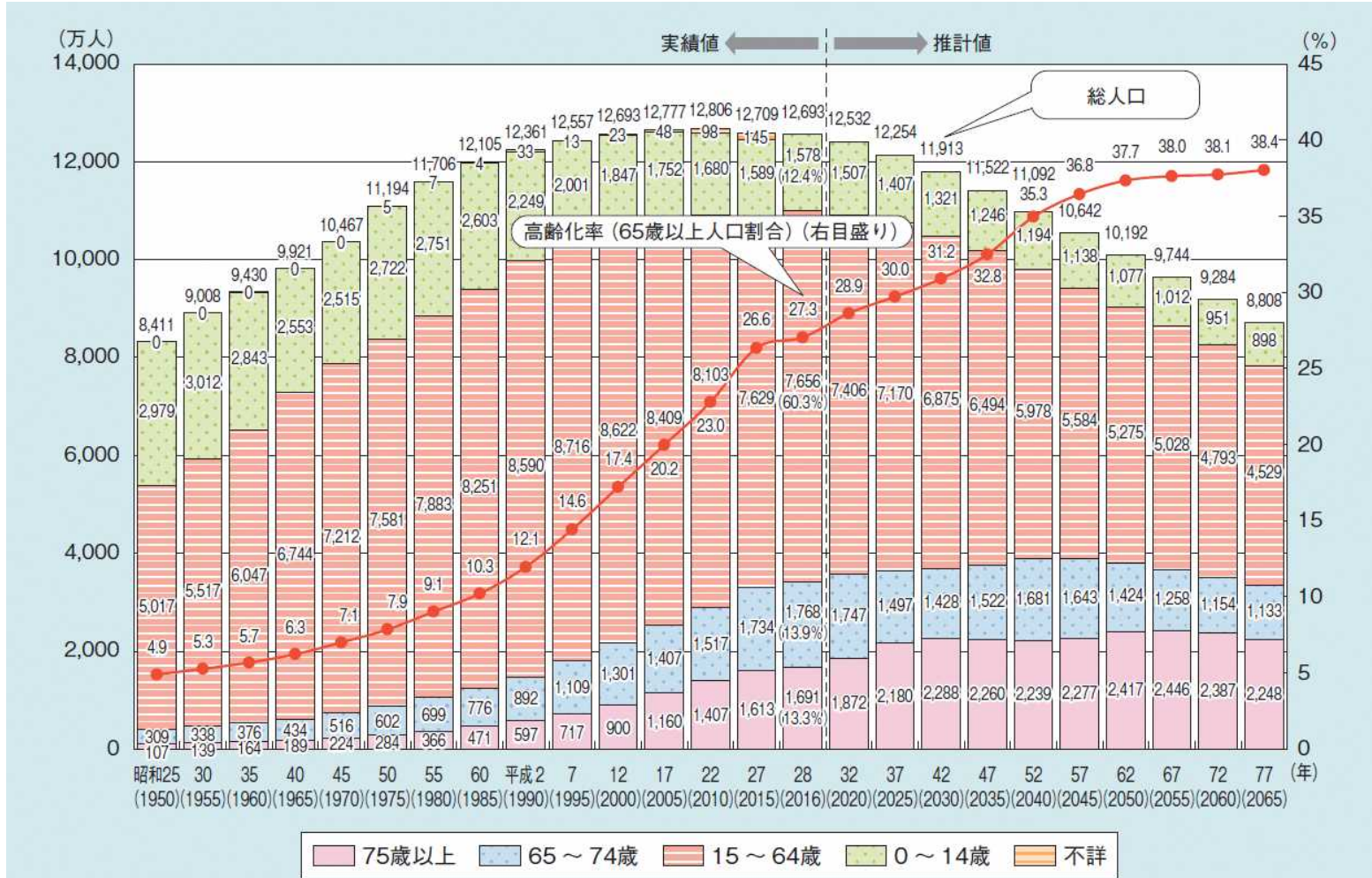
資料1

熊谷市の現状と公共施設再編に向けた取組

1. 公共施設マネジメントの必要性

日本の人口割合は高齢者の割合が増えてきています

今後の人口推移

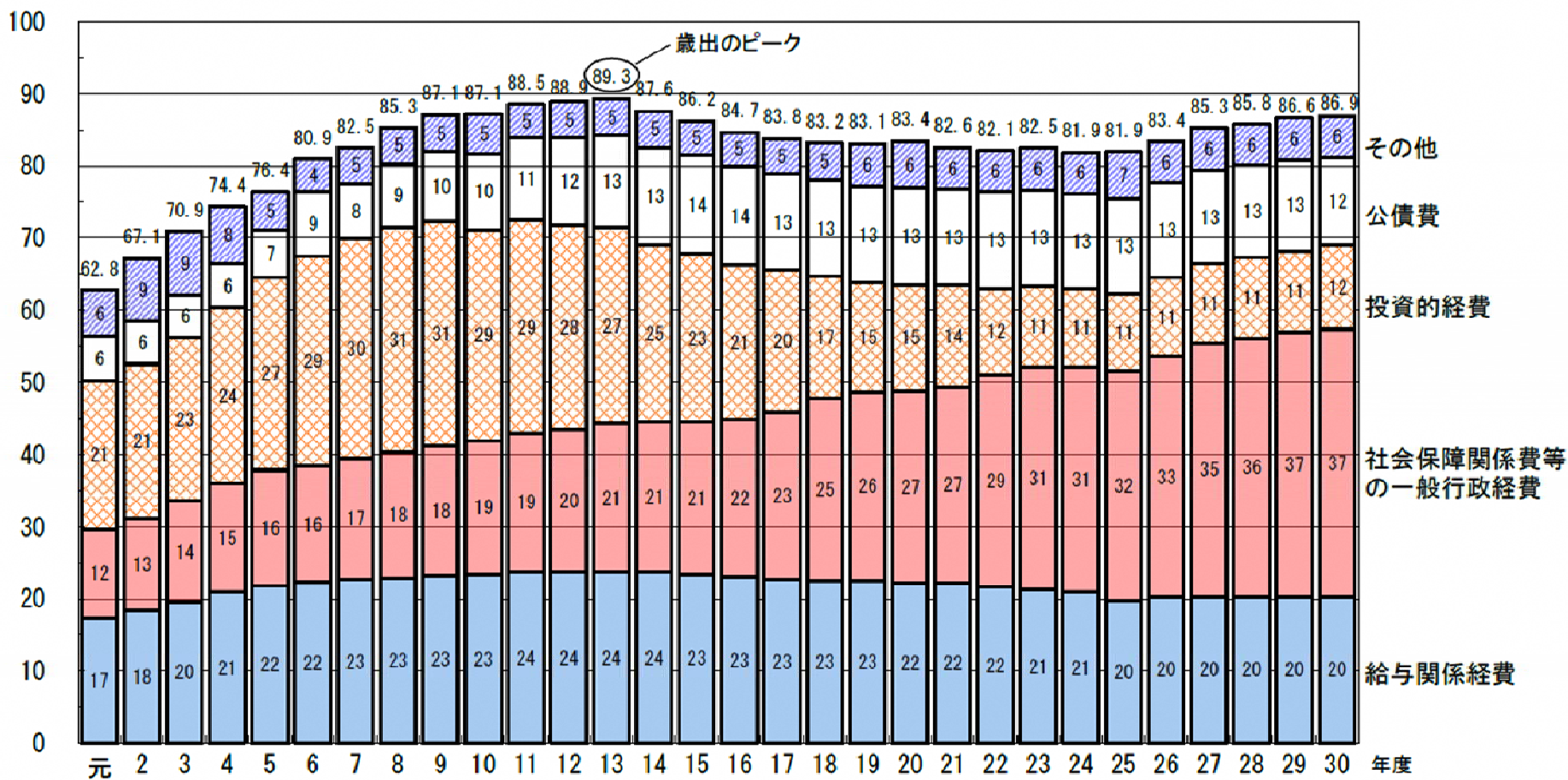


※出所：内閣府資料「平成29年度版高齢社会白書」

高齢化に伴い社会保障費が増加し、施設の更新投資等に使用できる投資的経費が年々減少しています

地方財政計画の歳出の推移

(兆円)

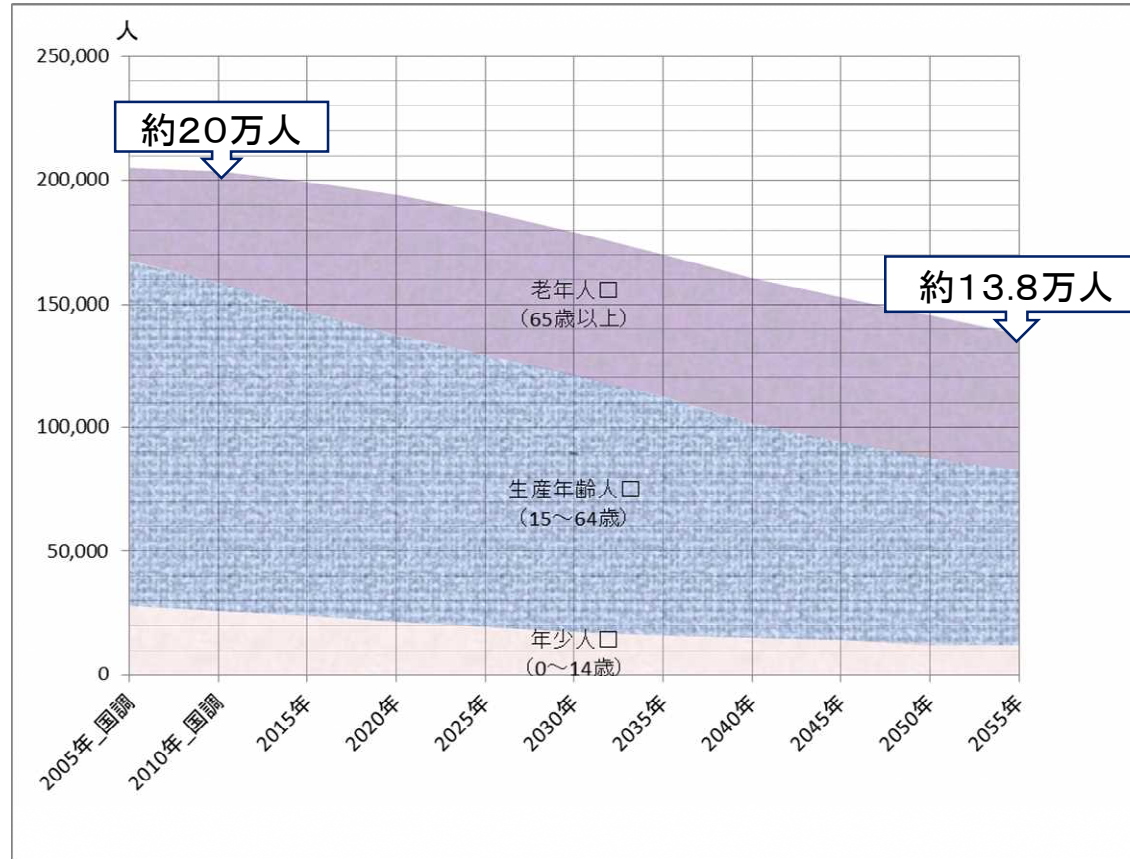


※出所:総務省資料「公共施設等総合管理計画の更なる推進に向けて」

2. 熊谷市の現状

熊谷市の人口は？

熊谷市の人口推計

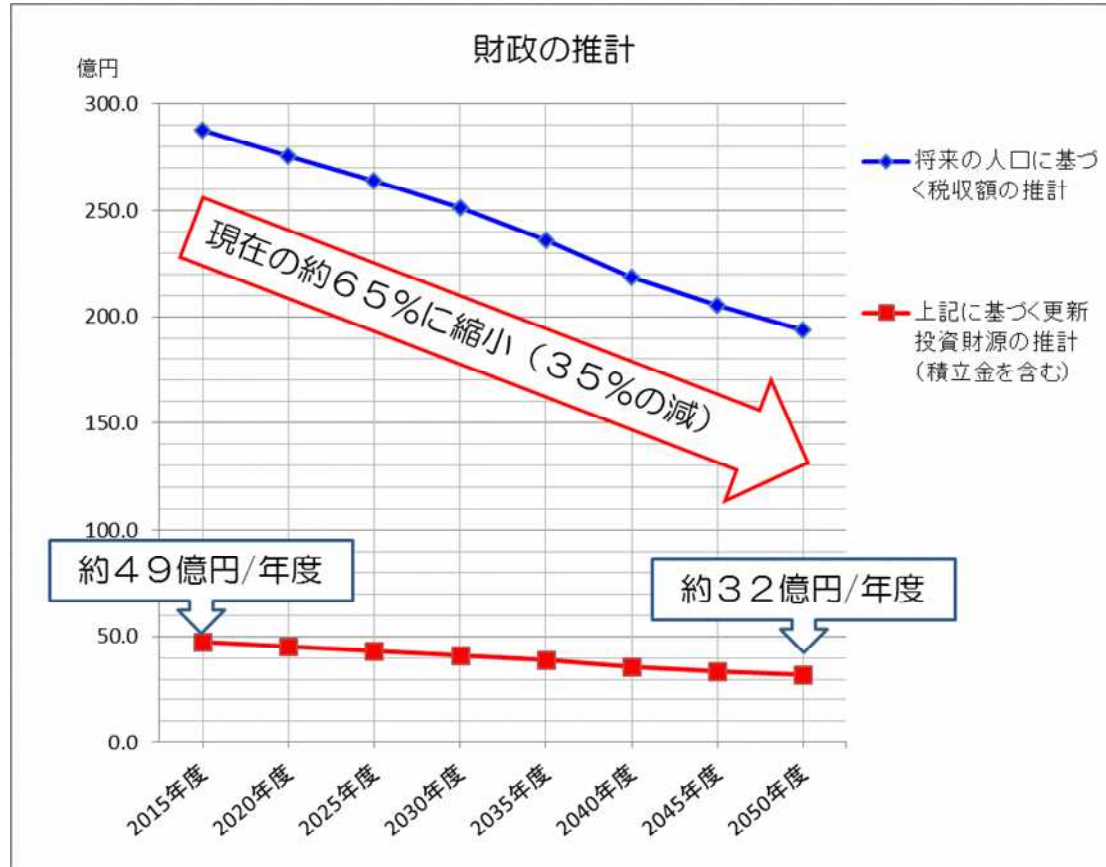


出所:熊谷市公共施設アセットマネジメント基本方針

1. 現在の約20万人の人口は、40年後には約13.8万人まで減少する見込みです。
2. 特に生産年齢人口(15～64歳)と年少人口(0～14歳)の減少が顕著です。

熊谷市の財政状況は？

熊谷市の財政推計



出所: 熊谷市公共施設アセットマネジメント基本方針

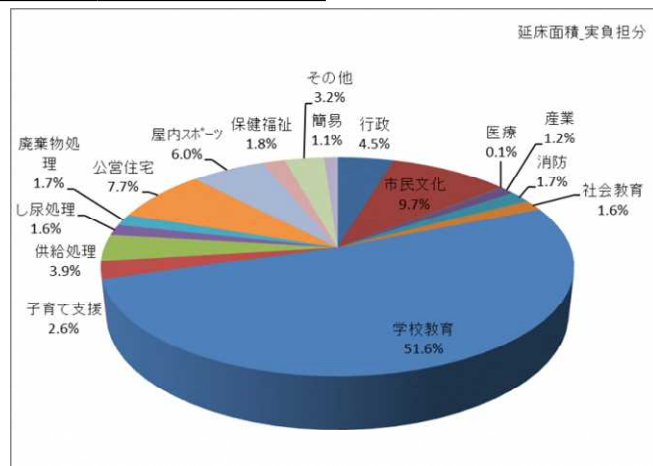
1. 人口減少に連動して、税収額は現在の約65%に縮小する(約35%減となる)見込みです。
2. 施設の更新投資等にかかる財源も年間当たり約49億円から約32億円に約35%縮小する見込みです。

熊谷市にはどのくらいの公共施設があるの？

建物の状況

施設数は555、延床面積では約62万㎡

施設系統	延床面積 (㎡)	施設系統	延床面積 (㎡)
行政	28,343	し尿処理	9,851
市民文化	60,306	廃棄物処理	10,741
医療	343	公営住宅	48,131
産業	7,574	屋内スポーツ	37,297
消防	10,549	保健福祉	11,462
社会教育	10,134	その他	19,963
学校教育	322,257	簡易	6,730
子育て支援	16,304	合計	624,384
供給処理	24,400		



インフラの状況

道路延長約2,300kmをはじめ膨大な量

施設系統	存在量	備考
道路	10,795,332㎡	道路面積（道路部面積）。 延長（実延長）では、 2,295,003m 一級路線：110,530m 二級路線：128,725m その他：2,055,748m
橋梁	41,527㎡	橋梁面積。 延長（実延長）では、 6,759m 本数では、 橋長15m以上の55本を 含む1,068本
上水道	1,149,973m	上水道管の総延長
下水道	490,856m	下水道管渠の総延長
農業集落排水	118,173m	農業集落排水管渠の総延長。野原・土塩地区農業集落排水施設管渠のうち、滑川町の負担分を除く。
河川	7,921m	準用河川の管理延長

出所：熊谷市公共施設アセットマネジメント基本方針（※2013年度末時点）

もう少し詳しく施設の状況を見てみましょう

熊谷市の公共施設(建物)の数

施設系統	具体例	施設数
行政	庁舎、事務所、出張所、文書庫など	23
市民文化	コミュニティセンター、ホール、公民館など	89
医療	診療所	1
産業	道の駅など	8
消防	消防署、消防分団車庫	38
社会教育	図書館、博物館的施設など	10
学校教育	小中学校、給食センター	48
子育て支援	保育所、児童館、幼稚園など	62
供給処理	浄水場、ポンプ場(下水道)など	46
し尿処理		3
廃棄物処理	ごみ焼却施設など	4
公営住宅	市営住宅	6
公園・緑地	公園、河川敷の緑地	155
屋外スポーツ	総合グラウンド	2
屋内スポーツ	体育館など	10
保健福祉	老人福祉センターなど	8
その他	葬斎施設、立体駐車場など	25
簡易	平置き of 駐車場、駐輪場	7
更新対象外	仮設住宅、廃止した施設など	10
合計		555

熊谷市には、このような公共施設があります

本庁舎



商工会館



市民ホール(中央公民館)



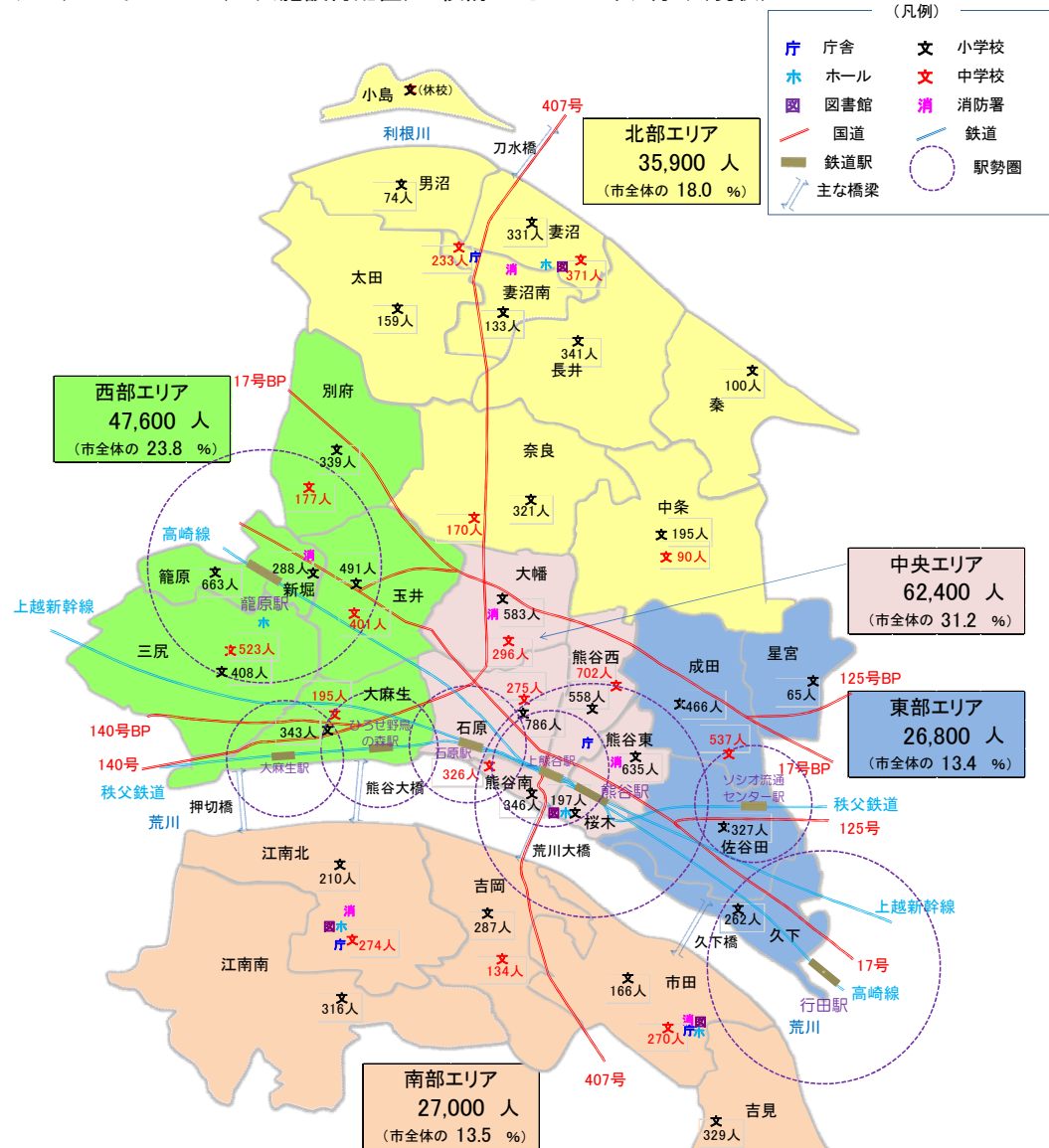
熊谷西小学校体育館



施設の配置状況は？

エリアと主要施設の配置

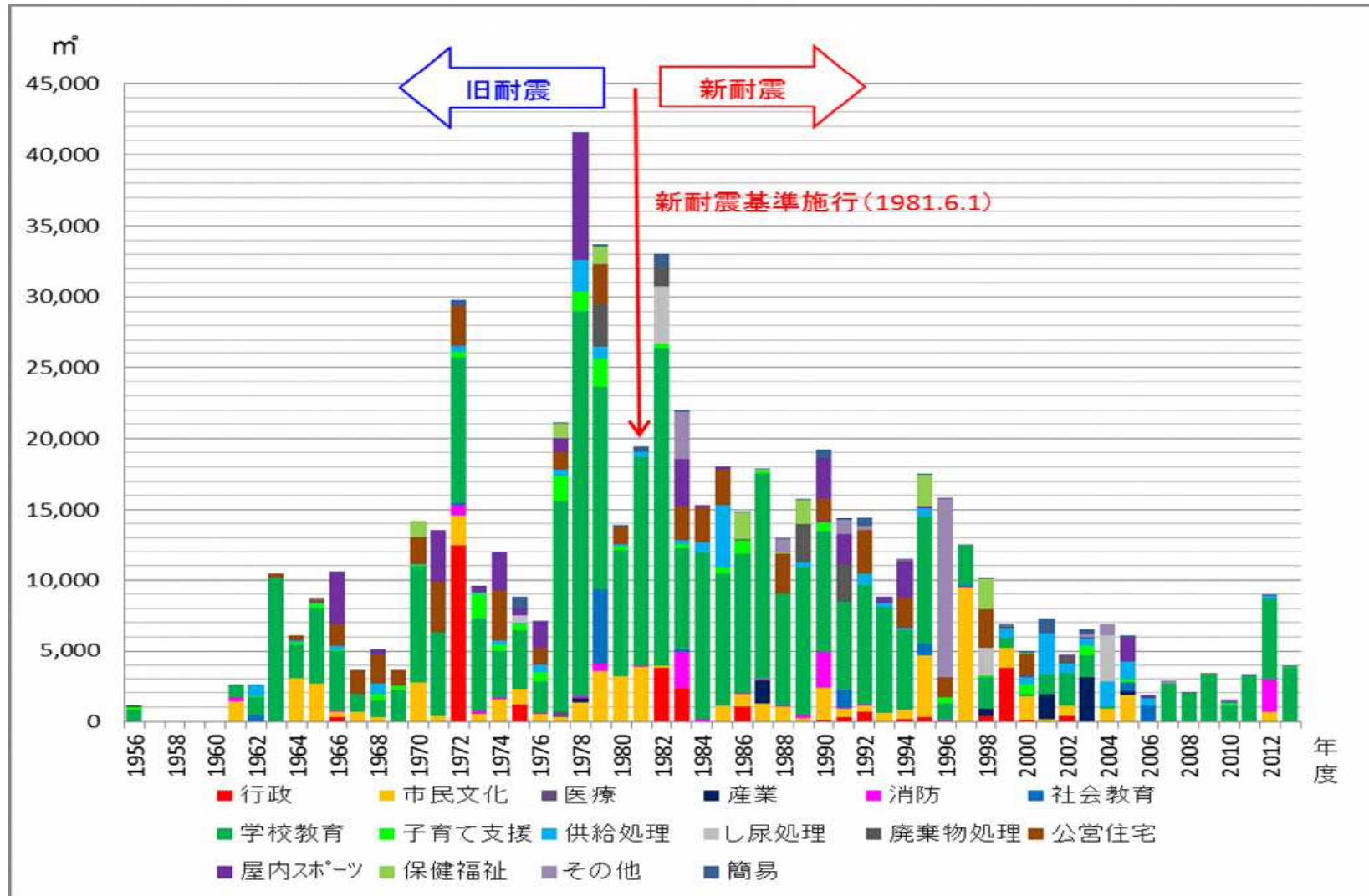
中央、東部、西部、南部、北部の5つのエリアの区分状況、人口、主要な施設の配置状況等は、右のとおりです。



*1 各エリアの人口は、2017(平成29)年1月1日現在の住民基本台帳人口です(概算)。
 *2 薄灰色の区域界とこれに付された名称は、各小学校の校区を示しています。
 各小中学校(「文」の記号)に付された人数は、2017年5月1日現在の児童生徒の総数です。
 *3 「駅勢圏(えきせいけん)」とは、鉄道駅を中心として旅客等の需要の発生が見込まれる範囲をいいます。
 各駅勢圏は、熊谷・龍原・行田の3駅は半径2km、その他の駅には半径1kmで想定しています。

古い施設が多いようだけど・・・

熊谷市が保有する建物の建築年度別の延床面積



出所:熊谷市公共施設アセットマネジメント基本方針(※2013年度末時点)

施設の老朽化の状況

老朽化している施設の事例



使いづらい施設や時代にそぐわない施設

使いづらい施設の事例

✓ エレベーター等の昇降機がない施設

大里庁舎、中央公民館、商工会館等の施設は、2階建て以上の建物ですが、エレベーター等の昇降機がありません。

✓ 専用駐車場がない施設

障害福祉会館や大原公民館等の施設は、公共施設利用者専用の駐車場が(ほとんど)ありません。

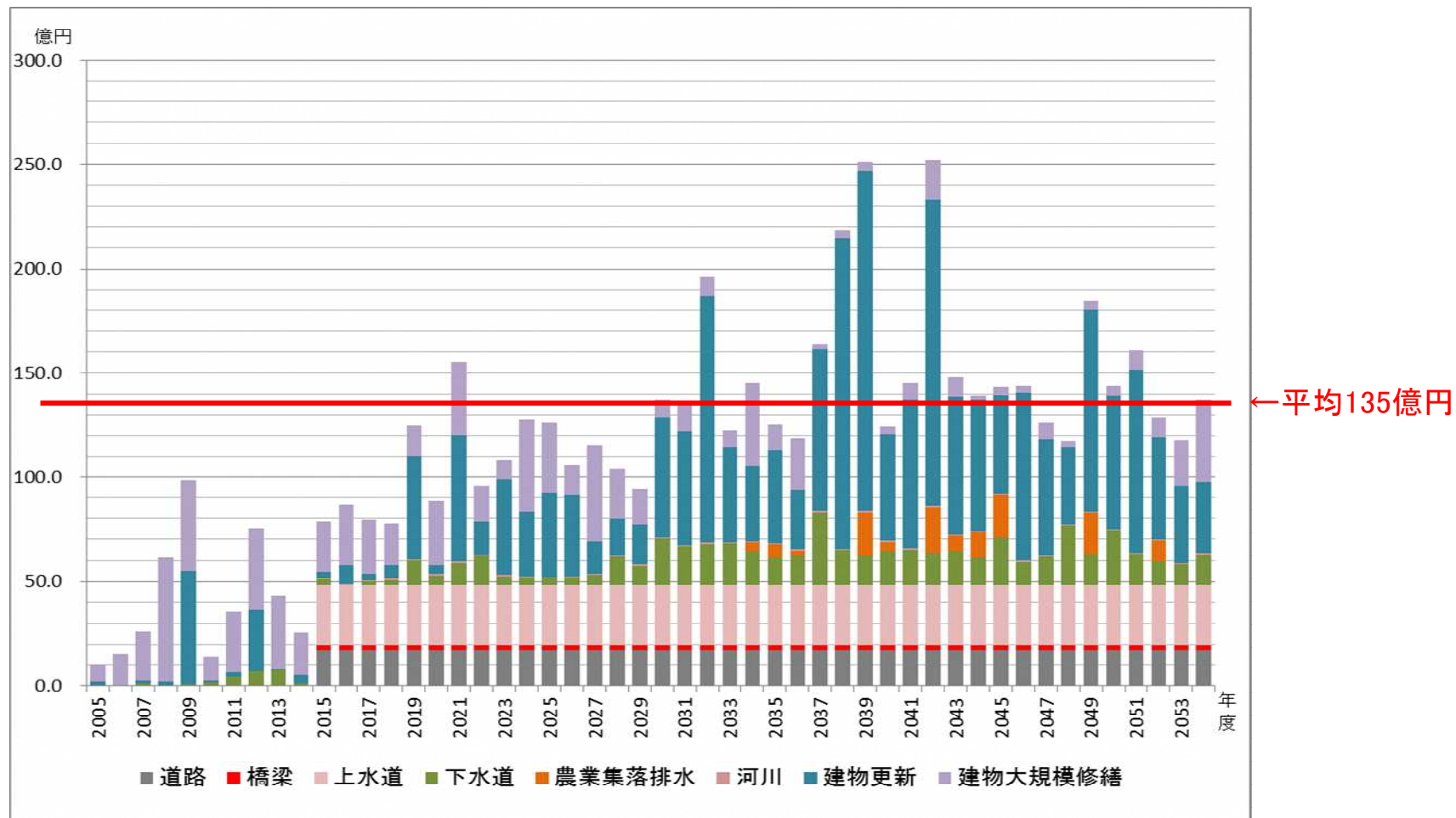
時代にそぐわない施設の事例

✓ トイレが男女共用の施設

市内の公共施設の中にはトイレが男女共用(例えば、1階は男女別のトイレだが2階は男女共用である場合を含む。)の施設があります。

公共施設の更新(建て替え)にいくらかかるの？

公共施設の更新費用推計



出所:熊谷市公共施設アセットマネジメント基本方針(※2013年度末時点)

2054年度(37年後)までの平均で、毎年度約135億円が必要となる計算です

施設を取り巻く課題のまとめ

人口

人口減少が進み、特に生産年齢人口(15～64歳)と年少人口(0～14歳)の減少が顕著です

財政

人口減少に連動して、税収額及び施設の更新投資等にかかる財源も縮小する見込み(49億円→32億円)の一方で、更新費用は平均で毎年度約135億円が必要になります

施設

公共施設の総面積は約62万㎡であり、そのうち約6割が築30年超になります。また、エレベーターや専用駐車場がない施設やトイレが男女共用の施設があるなど時代にそぐわない施設も存在しています

- ✓ 人口減少や人口構成が今後、大きく変わることを考えると、今のまま施設を維持することは効率的とはいえません。
- ✓ 老朽化した施設すべてを建て替えるだけのお金は、市にはありません。
- ✓ 新しい技術の活用や施設の複合化を進めることで世代間の交流がうながされるといったメリットも期待できます。

みんなの施設について、みんなで将来像を考えましょう。

3. 熊谷市の公共施設マネジメントへの取組

熊谷市の公共施設マネジメントの取組状況を発信しています

市民説明会の開催(2018年3月開催)

日時: 2018年3月25日(日) 14時～16時

場所: 商工会館大ホール

内容: 市の現状(将来の人口推移や更新費用推計)

市の公共施設マネジメントの取組状況
質疑応答

参加者: 31名



「市報くまがや」での連載(2017年度)

市報くまがやにて2017年度(2017年4月号～2018年3月号)の間、公共施設マネジメントに関する連載を行いました。また、2017年12月号にて特集ページを掲載しました。

【市報くまがや(2017年12月号)特集ページ】

ASSET MANAGEMENT
3カオチね、アセットマネジメントを学ぶ

行政改革推進室 内部線 210

◆これまでの「どうなる?」
熊谷くまがや平成29年4月からの市報連載です。建設のようなインフラは毎年数十億円という巨額のコストがかかりますが、生活の基盤となっており、建物のように、人口減少からといって削減はできません。建物・インフラの更新費用は40年間で毎年150億円、これまでは定期更新で、そのうち6割が30年超です。公共施設の耐用年数を60年と考えると、2020年代には建て替えをいくつも必要になります。そんな公立学校の更新費は、なんと実在の5倍以上の費用が掛かってしまいました。

◆10・11月号
ライフサイクルコストという考えがあり、建設・維持管理・運営・解体までの総コストを指します。建物のライフサイクルコストのうち建設費は3割程度です。コストを減らせば、他の分野と建設費を一線に使う区域利用という考え方もあります。

KUMAGAYA 平成29年(2017)12月 4

資産管理
更新費用
ライフサイクルコスト

Let's Try!

KUMAGAYA 平成29年(2017)12月 5

公共施設再編に関する市民との意見交換を実施しています

市民アンケートの実施(2017年度実施)

市内の公共施設について、市民の方々がどのように考えているのかを把握するためにアンケートを行いました。

実施期間:2017年12月～2018年1月

対象者:中学生以上の市民3,300人(無作為抽出)

回答者数(回答率):780人(23.6%)

主なアンケート項目:

- ・主な公共施設の必要数
- ・複合施設化される際に一緒にあるとよい施設
- ・施設の廃止や移転の際に重視すべき点
- ・貸館型施設における施設利用者の負担割合

※アンケート結果は、市HPにて公開しています。

市民ワークショップの開催(2018年度実施)

熊谷市の公共施設や財政の現状及び公共施設マネジメント計画について情報提供を行い、その後市が独自制作した「公共施設再編ゲーム」を通して将来の公共施設の在り方について市民同士で意見交換を実施しました。

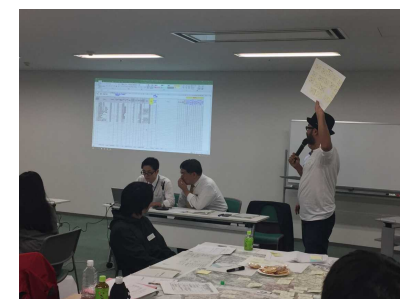
日時:2018年11月17日(土)、12月1日(土)

場所:ティアラ21ハートピア会議室

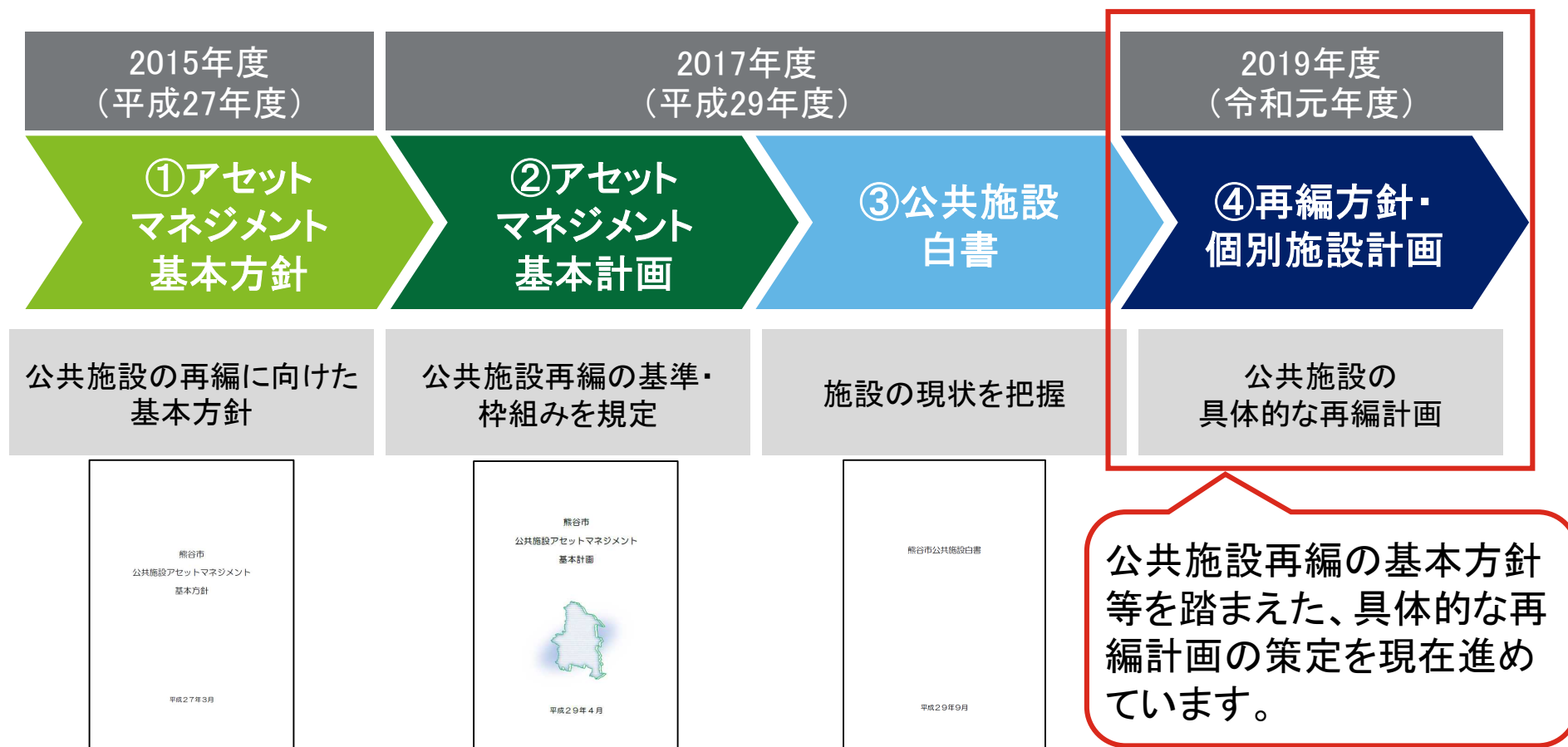
内容:市の現状に関する情報提供

「公共施設再編ゲーム」を通じた意見交換

参加者:25名(2日間通じ)



公共施設再編に向けた取組



これまでに策定した基本方針及び基本計画等の内容を踏まえ、「熊谷市個別施設計画」を令和元年度末までに策定する予定です。

熊谷市の「公共施設マネジメント」に関する取組の特徴

- ✓ 全庁的・横断的な検討組織を立ち上げ、全市をあげて「公共施設マネジメント」に取り組んでいます
- ✓ 5つのエリア（中央と東西南北の各エリア）に分けて検討することで、市内の地域性に配慮した「公共施設マネジメント」に取り組んでいます
- ✓ 市民アンケートや市民ワークショップで把握できた考え・意見を取り入れて作成した再編方針案に、さらに、説明会での市民の皆さんの考え・意見も反映させることで、再編方針をより良いものとし、その方針に基づいて個別施設計画を策定していきます